

日本生協連、プラスチック包材へのコープ商品対応方針を策定 ～2030年を目標に、環境負荷低減の取り組みを加速～



日本生活協同組合連合会（本部：東京都渋谷区 略称：日本生協連 代表理事会長：本田 英一）は、2018年に策定した「日本生協連 SDGs 取り組み方針 2018」を踏まえ、この度、2030年を目標年とするプラスチック包材へのコープ商品対応方針を策定しました。

日本生協連では、コープ商品で使用するプラスチック包材について「リデュース（使用量削減）」「リユース（繰り返し使用）」「リサイクル（再資源化・再生）」「バイオマス（植物由来素材利用）」の4つの視点で環境対応の取り組みを推進しています。

この度策定した「コープ商品のプラスチック包材 数値目標」は、環境負荷低減に向けた取り組みをさらに加速させるものです。

「コープ商品のプラスチック包材 数値目標 ～2030年に向けて～」

1. コープ商品開発においてマイクロプラスチックを使用しません。
2. 2030年までに、容器包材のプラスチック重量ベースで2016年対比25%^{※1}（約5,195トン）削減します。
※1 2016年度コープ商品の包材に使用されたプラスチック樹脂の重量は20,783トンです
3. 2030年までに、再生プラスチックと植物由来素材プラスチックの活用を進め、使用率を合計で50%に引き上げます。
4. 2030年までに、飲料等ストローはプラスチック以外の素材に100%切り替えます。

コープ商品のプラスチック包材に関するこれまでの主な取り組み

- 年間3,700万本以上の出荷量がある「CO・OP ただの炭酸水」のペットボトル本体を2017年4月に軽量化^{※2}したことにより、2019年3月までの2年間でプラスチック使用量を495トン削減しました。 ※2 1本あたり7g
- ペットボトルにラベルフィルムをつけないことで1ケースあたりのプラスチック使用量を5.16g削減した「CO・OP ラベルのない水（あずみ野）」を2019年6月1日に発売しました。詳細は5月28日発表の[ニュースリリース](#)をご参照下さい。

日本生協連は、この度掲げた数値目標に向け、コープ商品のプラスチック包材の環境対応に積極的に取り組むことで、環境負荷の低減に努めてまいります。

<お問い合わせ先>

日本生協連 広報部

TEL：03-5778-8106